効果倍増
わたしの教材活用術

「らくらくノート」の活用効果

福島県郡山市立桜小学校教諭　阿部　美枝子

はじめに

新年度でのノート採択にあたって「らくらくノート」を選択したのは，「ノート作りの指導を行っていく上で，どの子どもたちにも決まった形式で基本のノート作りを徹底させていけそうだ」と感じたからです。

これまで中学年を何度か受けもってきて，ノート採択に関しては「中学年向き」の指定から選ぶばかりでした。しかし，低学年で使用していた大きな罫線やマスからの切り替えに戸惑う子がいることと，中学年でのノート作りが高学年やその後の学習の取り組みの基礎を作る大切な役割があることを痛感していました。

「３年生」という実態

３年生になると，子どもたちの方も「ギャングエイジ」と称される通り，急に文字が乱れてきたり，わざと急いで書いてみたりして，低学年までの姿勢が崩れがちになる子が出てきます。

ノート記録やその方法について，丁寧に指導しているつもりでも，気がつくと全く別の方法で記録しているのを見つけることがあり，なかなか一律にはいかず難しいのが現状です。保護者から「急に大人びてきて，言うことをきかなくなった」「口のきき方が変わってきた」と相談を受けることが増えるのも同時期で，子どもたちの成長に対応した指導も工夫していかなければなりません。

これは算数に限らず教科全般に共通することですが，文字の乱れをなくすこと，丁寧に取り組む気持ちを育てていくことなど，低学年の時とはまた違った意味での学習を通したノート作りを，常に心がけていくことが大切になってきます。

3年生の算数と「らくらくノート」

そんな中で，3年生の算数では何といっても計算ノートが重要になってきます。特にわり算をはじめかけ算の筆算，図形，棒グラフ，時間の概念，さまざまな単位など，初登場の基礎となる内容が網羅されていると言っても過言ではないでしょう。

この「らくらくノート」は，そのすべての基礎・基本をおさえ，補える内容で工夫されているのではないか，と思えました。一般のノート価格より割高感はあっても，ノート作りの基礎をより統一させていくことができる，能力差があるとしてもどの子にも同じように取り組ませることができる，そんな安心感を抱いての選択でした。

ノート作りと指導の実際

これまでは，計算問題に取り組むにあたって，子どもの実態に合わせながらも，

①一マスにひとつの数字（計算では必ず）
②次の計算は，一マスや一行の間隔をとる
③式や大きな数などは一行で表す
④線は定規を使う

など，低学年でもやってきた基本と言えることを約束として取り組ませてきました。しかし，時間の経過とともに扱う数字もだんだん大きくなり，数も増え，慣れもあって，指導する私たちも「もう大丈夫かな」と思ってしまいがちです。後になって，ノートの取り方が悪かったために混乱している子どもの姿を見つけては，再度約束を確認したり，やり直しをしたりして，ノート作りの指導を個別に重ねていくことを考えるしかありませんでした。

「くりかえし重ねて指導する」ことは教育の基本だと言えますが，ノート作りでの指導を重ねていく時間がなかなか取れないのが現実です。学習内容の理解をはかったり，深めたりすることの方が重要になってきてしまうからです。これが実に時間がかかります。個別指導のほとんどがこれに費やされるのが実際でしょう。

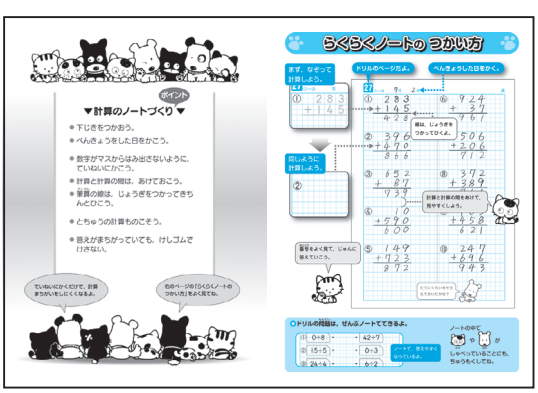
「らくらくノート」を使用して

この問題を簡潔に解決してもらえそうなのが,「らくらくノート」かもしれません。

実際に使用してみると，実に子どもたち側にとってわかりやすく，しかも楽しく工夫されているので，指導する私たちにとっても見やすく子どもたちの取り組みも一目瞭然でわかり，扱いやすいものとなっています。

利点を挙げてみましょう。

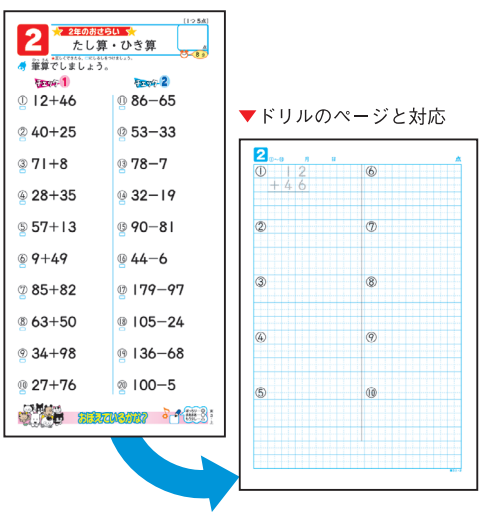
(1) 初めの見開きに，計算のノート作りのポイントや,「らくらくノート」の使い方がわかりやすく掲載されている。



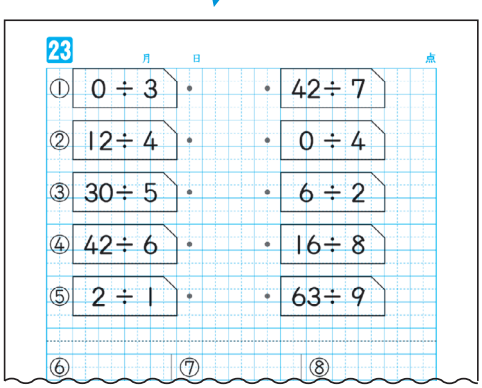
▲表紙裏の見開き

(2)　ドリル番号に対応した書き出しになっている（最初の問題は，なぞり書きでスタート）。

(3)　計算と計算の間隔がすっきり取れるように番号が指定されている（すぐに計算に取りかかることができ，効率的に時間を計算問題に使うことができる）。

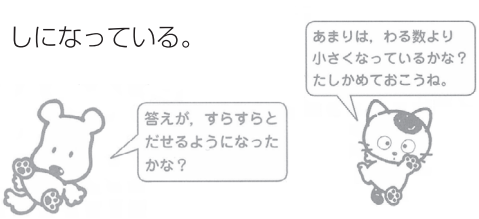


▼ドリルのページと対応



▲計算以外の問題もすべてノートでできる

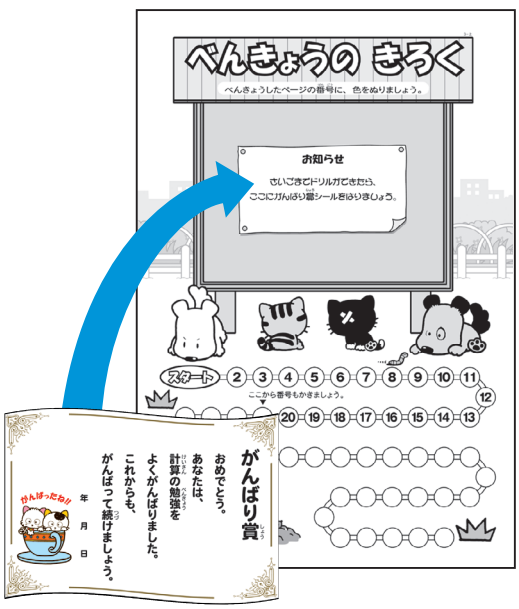
(4)　キャラクターのふき出しコメントが要点をついていて，子どもたちへの支援や励ましになっている。



▲キャラクターのコメント

(5)　最後に自由ページがついている（くりかえし行うドリル計算や計算スペースとして利用できる）。

(6)　最終ページには「べんきょうのきろく」があり，「がんばり賞」シールを貼って子ども一人ひとりへの賞賛ができる。



▲付録「がんばり賞」シール

このように，子どもたち側にとっての利点が多いのです。これは，指導する私たちにとっても利点になります。つまり，子どもの様子がわかりやすく，助けてもらえている，と言えるのではないかと思います。

ドリル番号が指定されているノートなので，全員必ず最低でも一回は全部やり通したことが確認できます。子どもにとっても，手のつけられていないページが「まだやっていなかったところ」とはっきり知ることができ，能力差に関係なく「やらなくちゃ」という気持ちを引き出させることになりました。

くりかえすための工夫

「らくらくノート」は「くりかえし計算ドリル」に合わせたものですが，一回きりしか書き込めません。くりかえし取り組ませるためにもう一冊ノートを準備することも考えましたが，保護者の負担や，子どもたちの準備や活用の負担を考慮して，無理に用意はしませんでした。授業用ノートを兼用し，復習としてドリル計算を行ったり，ドリル用のミニテスト用紙を準備してドリルを使用したりして，何とかくりかえしのドリル学習を行っています。

ノート作りの重要性

教科書にも「ノート作り」が取り上げられるようになりました。単元のまとめとして，「わかったこと」や「感想」など，子どもたちが理解したことを文章や数式や図を取り入れて自由に書き表します。また，書店には，『東大合格生のノートはかならず美しい』(太田あや著・文藝春秋発行）という本も並んでいます。ノート作りの重要性が益々高まってきているのでしょう。

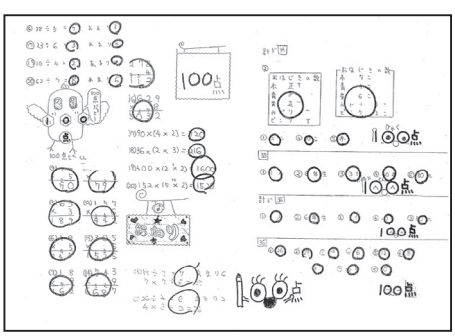
高校入試に，小学校の中学年で習ったことが出題されることがあるように，学習の基礎・基本のスタートとして中学年は大事だと思います。ならば，できるだけ時間を有効に使い，子どもたちの学習理解を深め徹底をはかっていくために，授業を大切にしていかなければなりません。そして，くりかえし学習に取り組ませる練習とそのノート作りが大事になってきます。その中のひとつとして，算数での「らくらくノート」の活用は，〝誰が見てもわかるノート作り〟に役立ったと言えます。

子どもたちの変化

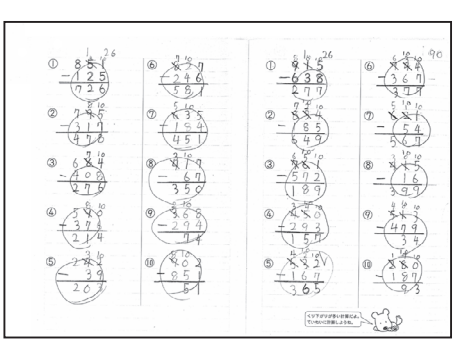
子どもたちの中に，ノート作りを楽しむ様子が見られるようになっています。特に女子は，書いている本人が一番楽しいのでしょうが，見ている側にもその楽しさが伝わってきます。

自らが進んで楽しくノートをまとめていく――これほど貴重な勉強法はないのかもしれません。これがきっかけとなって，他の教科へと広がり，つながっていくことを願うばかりです。

（22年度までの教材を使った実践例です。）



▲授業用ノートでくりかえし練習をする時も，楽しくまとめています。



▲「らくらくノート」を使ったドリル学習